

## 音程 ( interval ) のメカニズム

ポピュラー系のギターを弾く上では、理論なんて必要ないけど、音楽の知識は有ったほうが何かと便利です。

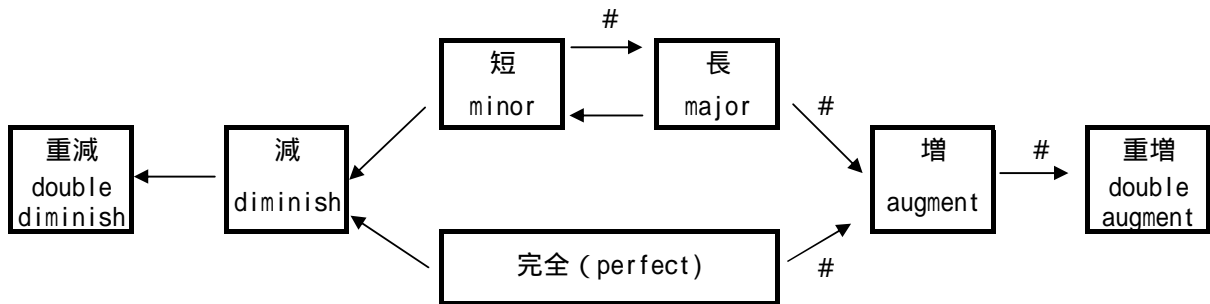
特に音程 ( インターバル ) の知識は、今後ギターが上達するにつれて、必要になってきますので、本当に簡単なメカニズムを、この際に理解しましょう。

まずは下の表を見て下さい。

これが音程やコードネームを理解する上での、便利なツールになります。

ほとんどの人が、何を書いてあるのか理解できない筈です。けど、知ってる人には常識でしかありません。

### 【 音程表 】



### 音程表の見方

それでは、上記の音程表の見方を、順次説明します。

まずは、簡単なルールを設定しますので、これだけは先に覚えて下さい。

- ・完全音程はP、長音程はM、短音程はmと表記します。
- ・増はaug、重増はd . aug、減はdim、重減はd . dimと表記します。
- ・音程は数字で表記します。1度は1、4度は4と、こんな具合です。

更に少しだけ

- ・1度、4度、5度、8度の音程は、基本的には **完全音程** です。  
P 1とかP 4と表記します。けっしてM 4とかm 4とかは有りません。地震じゃありません。
- ・その他の音程 ( 2度、3度、6度、7度、9度、11度、13度 ) は、基本的には **長音程** または **短音程** です。  
M 7とかm 3と表記します。けっしてP 2とかP 6はありません。

ここから、具体的な表の見方に入ります。

まずは「ド」という音が有ったとします。ドレミファソラシドのドです。

音程と言うからには、1個の音には流石に音程はありません。音程と言うのは或る音と、更に別の音との感覚を現すものだと思って下さい。

それでは、次にドレミファソラシドの「ソ」の音が来たとします。

ここで最初の「ド」と次の「ソ」の音の音程は？と問われれば、これには音程が生じますから、完全5度だということになります。

これも、単純には説明し難いのですが、ドレミファソと5個の音が並んでいますから5度だと覚えて下さい。

そして、長音階の根音のドとソの音程は数百年前から、P 5（完全5度）とされています。  
（詳しくは「音程別表」に説明していますので、是非そちらを見て下さい。色んな謎が氷解していくと思いますよ）

さて、それではドとソ#との音程はどうなるのでしょうか。

この場合に上記の表が役立ちます。

ドとソはP 5でしたが、#がついた矢印を辿ると増の枠に向かいます。

つまり、この音程は増5度、a u g 5と言うことになります。

反対に、ドとソ の音程はというと？。

そうです。察しの通り、 が付いたほうは減となっていますから、この場合はd i m 5になります。

次に参ります。

ドとラだったらどうでしょう。

長音階のドとラの音程は、昔から長6度（M 6）と決められています。これは覚えて下さい。

心配しなくても、「音階別表」で判り易く説明していますから、直ぐに覚えられます。

それでは、ドとシだったら M 7になるのかという疑問ですか？。 **その通り。**

M 7といえば、地震なら相当の大きさです。つまりM 7（major7th）の音程は、M 7（マグニチュード7）の地震に匹敵する衝撃をもたらします。と言うほどのものではありませんが、かなり刺激的な音程ではあります。

以下同じ要領で、ドとラの音程を下に記載します。

ド と ラ#	a u g 5
ド と ラ# #	d . A u g 5
ド と ラ	m 5
ド と ラ	d i m 5

どうしてそうなるか、判りましたか？。

表の上から#または を辿ってみて、ご自分で理解して下さいね。

「音程別表」には 上のほうに音符を、中間にその音符と音程を記載していますから、参考になさって下さい。

下のほうには、コードの構成音とコードネームを書いていますから、その微妙な関連度合いを考えるだけでも楽しいですよ。

例えば、最後の「Cdim7」（シーディミニッシュドセブンス）とかは、昔から何となく知ってはいたけど、結局d i m 5とd i m 7の音が含まれてるコードだったんだ！なんて、妙に納得しましたもん。